14. タングルウッドの奇跡

五嶋みどりは世界的なヴァイオリニストとして有名なりは、3歳頃からヴァイオリンの英才教育をははないのもとで受けます。からヴァイオリンの英才教育をははないのもとで受けます。かのじょは母親の期待に応えて、どんどんど才能を伸ばし、1982年



にはアメリカのジュリアード学院でヴァイオリンのレッスンを始めます。そして、11歳の時、ニューヨーク・フィルハーモニーのコンサートでデビューを飾り、天才少女と呼ばれるようになりました。その天才ぶりを示すエピソードがタングルウッドの奇跡です。

みどりが 14歳の時、マサチューセッツ州で毎年夏に開かれる、タングルウッド音楽祭で演奏することが決まりました。レナード・バーンスタインの指揮で演奏中、彼女が使っているヴァイオリンの弦が切れてしまうというトラブルが起きました。この時、みどりが使っていたヴァイオリンは 3/4 サイズの大きさでしたが、コンサートマスターが使っていた普通サイズのヴァイオリンに特ち替えて演奏を続け

ました。ところが、コンサートマスターから借りたヴァイオリンの弦がまた切れてしまうトラブルが起きました。今度は、前コンサートマスターが持っているヴァイオリンを借りて、最後まで演奏を終えました。一度にわたって弦が切れるというトラブルで演奏を中断するところだったにも関わらず、慌てることなく冷静に落ち着いて、涼しいってったったにも関わらず、慌てることなく冷静に落ち着いて、涼しいな顔で演奏を続けたみどりにバーンスタインも感激し、コンサートが終わると彼女を何度となく強く抱きしめました。翌日のニューヨーク・タイムズ紙は「14歳の少女がタングルウッドをヴァイオリン芸芸がマイムズ紙は「14歳の少女がタングルウッドをヴァイオリン芸芸がでない。

天才少女と言われたみどりも、全てが順調だったというわけではありません。その影*で母親との関係で問題を抱えていたようです。母親のレッスンは厳しく、みどりが小さいからと言って全然妥協せず、納得いくまで何度も練習させたそうです。そんな母親に抵抗できなかったみどりは一時期、摂食障害という病気になってしまい病院に入院せざるを得ませんでした**。その後、みどりは母親から自立しない限り病気を克服することはできないと考え、ボランティア活動や無料のコンサートなどを積極的に行い、その中で病気を克服していったそうです。みどりの親子関係は理想とは言えなかった

かもしれませんが、この母親がいなかったら、みどりは天才と呼ばれることも一流のヴァイオリニストになることも、そして、何よりタングルウッドの奇跡も起こらなかったかもしれません。

単語リスト:

英才教育(えいさいきょういく)Giáo dục anh tài (năng khiếu) 飾り(かざり)Đồ trang trí 奇跡(きせき)Kỳ tích, phép màu 演奏(えんそう)Biểu diễn 指揮(しき)Chỉ huy 弦(げん)Dây (đàn, cung)

感激(かんげき)Cảm kích, xúc động 征服(せいふく)Chinh phục, xâm chiếm 妥協(だきょう)Sự thỏa hiệp 納得(なっとく)Lý giải, đồng tình 摂食障害(せっしょくしょうがい) Chứng rối loạn ăn uống 克服(こくふく)Khắc phục